

問題 専門科目 [刑事政策]

現代のリスク社会では、AIを悪用した犯罪、新たな形態の経済犯罪、環境・公衆衛生上の危険など、多様かつ複雑なリスクへの対応が課題となっている。このようなリスクに対しては、社会防衛や犯罪予防の観点から、刑法による積極的な介入が期待されることもある。他方、刑法は個人の自由や権利を強く制約するものであるため、その運用及び適用に当たっては、謙抑性の原則が重要な意義を有する。

以上のような現代の刑事政策上の要請と刑法の謙抑性との関係を踏まえ、以下の二問に答えよ(両問とも解答すること)。

1. 刑法における謙抑性、補充性及び断片性とは何か。それぞれの内容及び相互の関係について説明せよ。
2. 社会防衛及びリスクの早期予防という現代社会の要請に応えつつ、刑罰権の過度な拡大を防止するために、刑事立法及び法解釈において、いかなる限界を設けるべきか。刑法の謙抑性を踏まえ、具体的に論ぜよ。

出題の意図

専門科目 [刑事政策]

出題の意図は、刑法の謙抑性、補充性及び断片性に関する基礎的理解を確認するとともに、現代社会における犯罪予防、社会防衛の要請と刑罰権の抑制との関係について考察させることにある。あわせて、社会の安全と個人の自由及び権利保障との均衡について、基礎知識を踏まえ、自らの見解を論理的に展開する力を評価する。

具体的な採点基準と留意点は、以下のとおりである。

1.

① 刑法の謙抑性の意味

- ・刑法は、国民の自由や権利を強く制約する手段であるため、その発動は必要最小限にとどめるべきであると説明している。
- ・刑法は社会問題の解決のために直ちに用いるものではなく、「最後の手段」として位置づけられると述べている。
- ・最後の手段、人権保障などに言及している場合は加点する。

② 補充性の意味

- ・民事上、行政上の措置その他の非刑罰的手段によって法益を十分に保護できる場合には、原則として刑法による介入を控えるべきであると説明している。
- ・刑法は、他の手段では法益を十分に保護できない場合に補充的に用いられると述べている。

③ 断片性の意味

- ・刑法は、すべての違法行為を処罰するものではないと説明している。
- ・重要な法益に対する重大な侵害のみを、限定的に犯罪として処罰するものであると述べている。
- ・「違法な行為のすべてが犯罪となるわけではない」といった趣旨を述べている場合は加点する。

④ 三者の相互関係

- ・三者の定義を個別に説明するだけでなく、それぞれの位置づけ及び相互関係を明確に説明している場合は加点する。
- ・刑法の基礎知識に基づき、自身の考えを述べている場合は加点する。

2.

① 現代社会における予防的対応の必要性

- ・AIを悪用した犯罪、経済犯罪、環境・公衆衛生上の危険など、事後的な処罰だけでは十分に対処できないリスクが存在することを説明している。さらに、具体例を用いながら、論点を明確に示している場合は加点する。

② 刑事立法における必要性及び補充性

- ・刑罰を導入する前に、民事上・行政上の措置など、刑罰以外の手段による対応可能性を検討すべきであると述べている。

- ・犯罪化は、他の手段では十分に法益を保護できない場合に限定すべきであると指摘している。

③ 保護法益、処罰範囲、比例原則などの基礎知識に言及している

- ・保護すべき法益の内容と重要性を明確にする必要があると述べている。

- ・予備・準備行為、さらに法益侵害前の危険段階を処罰する場合には、処罰を前倒しする必要性と合理性を慎重に検討すべきであると指摘している。

- ・行為の危険性、責任の程度、法益侵害の重大性に応じて、刑罰との均衡を図るべきである。

- ・比例原則、責任主義、法益保護原則などに言及している場合は加点する。

④ 法解釈における限界

- ・罪刑法定主義に基づき、類推解釈や安易な拡張解釈を避けるべきであると述べている。

- ・条文の文言及び保護法益を踏まえて構成要件を厳格に解釈し、処罰範囲を必要な限度に限定すべきであると指摘している。

- ・予防の必要性のみを理由として、解釈によって処罰範囲を拡大してはならないと述べている。

⑤ 自らの見解を論理的に展開する力

- ・刑罰権の拡大を全面的に肯定又は否定するのではなく、社会の安全と個人の自由及び人権保障との均衡について自らの見解を示している。

- ・具体例を用いて論じている場合は加点する。

- ・問題提起から結論まで一貫して論じている場合は加点する。

- ・関連する発展的知識として、保安処分に言及し、その意義や限界を適切に論じている場合は加点する。